

平成25年度全国学力・学習状況調査の結果を受けて

(学校便り「さかえ」第25号 平成25年12月10日発行より一部抜粋)

調査の結果

〔国語：主として知識〕

- ・「話すこと」「聞くこと」「読むこと」については平均的な結果である。
- ・「書くこと」「言語事項」は全国より下回っている。

〔国語：主として活用〕

- ・「書くこと」「言語事項」については平均的な結果である。
- ・「話すこと」「聞くこと」「読むこと」は全国より下回っている。

〔算数：主として知識〕

- ・「量と測定」は平均的な結果である。
- ・「数と計算」「数量関係」「図形」は全国より下回っている。

〔算数：主として活用〕

- ・「数量関係」「数と計算」「量と測定」「図形」とも課題である。

〔生活習慣や学習環境に関する調査〕

- ①生活習慣
 - ・1日に3時間以上テレビやDVDを見たり、ゲームをしている児童が多い。
 - ・寝る時間が遅く、起きる時間が遅い。
- ②家庭学習
 - ・1日の学習時間の割合が少ない。全くしない児童も多い。
- ③自尊感情等
 - ・難しいことでも挑戦しようとする児童の割合が全国と比べて低い。
 - ・自分にはよいところがあると思っている児童の割合が全国と比べて低い。
 - ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思っている児童の割合が全国と比べて低い。
 - ・いじめはどんな理由があってもいけないことだと思っている児童の割合が全国と比べて低い。

今後に向けて

具体的改善策 栄小3つの柱

I 授業改善

- 校内研究を核にして、算数科を中心に学び方を実践する。(学習の流れの確立)
- 時間を守ることや学習の約束の徹底と生活リズムの安定を図る。また、終末段階での定着・習熟問題を取り組む時間の確保をする。(日々の授業改善)
- 朝学習指導を設定し、児童が自習時に自立した行動がとれるように指導していく。(朝学習の強化)
- チャレンジテスト(北海道教育委員会による学力向上プロジェクト)の活用と分析
- 少人数指導(習熟度指導)の効果的な活用

II 家庭との連携

- 「家庭学習のてびき」の見直し
- 「学校だより」による定期的な呼びかけ
- 家庭学習、読書の習慣化
- 宿題の学校としての取組の統一
- 長期休業中の宿題・連携→評価(あゆみ)との一体化
- 家庭の意識改革への働きかけ(生活リズムの確立)

III 学習規律の徹底

- 栄小スタンダードの確立
- 学年の発達段階に応じた学習規律を学校として作成、および「学習規律」の掲示
- 全教職員が共通理解にたった指導

IV その他

- あいさつ・礼儀・きれいな学校などの基本的な生活習慣を定着させ、反応のよい子どもを育てる。
- 個々の学習意欲を高め、理解を進める指導方法の工夫を継続的に実施する。